

水力で環境保全大臣賞

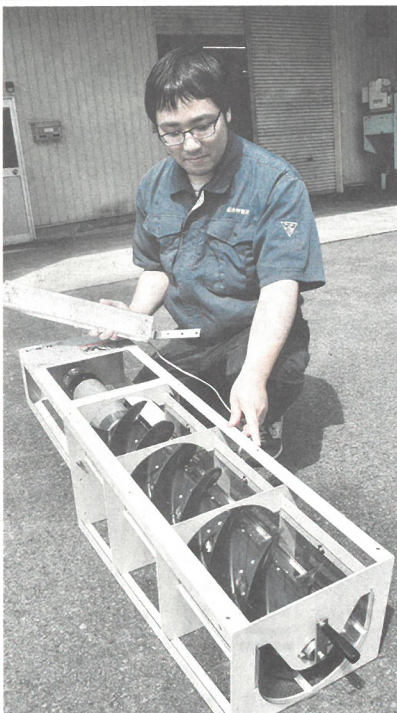
健全な水環境の実現に貢献する活動を顕彰する「日本水大賞」で、小水力発電の普及を目指す角野製作所(恵那市長島町)とNPO法人地域再生機構(同市三郷町)が、大賞に次ぐ経済産業大臣賞に選ばれた。発電装置の開発と技術の活用に向けた協働の取り組みが評価された。両者は「恵那市から循環型社会の実現を」と活動の推進を誓う。(長谷部正)



難削材の量産加工技術を生かし、自動車、航空宇宙分野を中心に事業を展開してきた。

角野製作所と地域再生機構は、小水力発電を軸に二〇〇七年から取り組む再生可能エネルギーの普及啓発活動を「小水力発電による持続可能な社会の実現」と題した報告書にまとめ、初の応募で受賞。審査では「小規模な一企業(いわゆる町工場)が、世界的な課題であるエネルギー問題への取り組みに尽力している」と高い評価を得た。

角野製作所は角野秀哉社長(六〇)ら従業員十五人の中小企業。鍛冶業をルーツとする創業百二年の金属加工業者で、チタンに代表され



角野製作所と地域再生機構が共同開発した量産型ピコ水力発電装置「ピコピカ10」=恵那市長島町の同製作所で、表彰状を手にする角野社長(左から2人目)ら=恵那市役所

温暖化に代表される環境問題を背景に、化石燃料に代わるエネルギーの必要性が叫ばれる中、同社は大規模な用地確保や設備工事が不要で、発電効率に優れた小水力発電に着目。「持続可能な地域社会への再生」を掲げて脱温暖化に取り組む地域再生機構の駒宮博男理事長(六〇)とともに、小水力の水車を使った発電方式



循環型社会の実現に尽力

で、数十メートルの落差でも発電可能。小学生でも組み立てられ、発電量は約五ワット。発光ダイオード(LED)防犯灯や鳥獣被害対策の電気柵、災害時の非常用電源など幅広い用途に対応する。水車の羽根部分にペットボトルのキャップを再生利用するなど、身近な環境意識を育む配慮も施した。

地域コミュニティでの利活用を想定し、五百ワットの発電が可能な「ピコピカ500」も実用化。さらに、ミャンマーの農村での調査に基づき、電気自給率の低い開発途上国で家電の動力となる「ピコピカ100」の開発に取り組み。

国際連合工業開発機関の環境技術データベースに登録され、外務省の短編動画で世界各国に発信されるなど、国際的な注目を集めている両者の技術。駒宮理事長は「小水力発電だけに限らず、地域の資源を用いた再生可能エネルギーの重要性は増している」と循環型社会実現への決意を語り、角野社長は「今後も身近なエネルギーと環境の調和を目指す」と意気込む。



日本水大賞 元宇宙飛行士の毛利衛・日本未来科学館館長の委員長に、水に関する多様な分野の学識経験者らでつくる日本水大賞委員会などが主催。22回目の本年度は全国から142件の応募があり、地域ぐるみで防水活動を実践する茨城県常総市根新田(ねしんてん)町内会が最高賞の大賞に選ばれたほか、10件の活動に各賞が贈られた。